



学校法人 電子学園

日本電子専門学校

# 令和4年度 第二回学校関係者評価委員会

令和4年11月28日（月）



—本日の予定—

全体会：

午後1時30分～

午後4時00分



校長挨拶

船山 世界



# 令和4年度前期取組みについて 中間報告

## 評価・ご意見 記入方法

Googleフォーム： <https://onl.tw/e3uaLNk>

令和3年度第二回学校関係者評価委員会  
評価記入シート

アカウントを切り替える

\*必須

令和3年度 教育重点項目 前期実績報告

・令和3年度前期 学校の近況\*

十分 不十分

評価結果

コメント

回答を入力

戻る 次へ

フォームをクリア



# 令和4年度 第2回学校関係者評価委員会 教育重点項目実績報告(前期)



# 報告内容

## 1. 学校の近況

- ① 新型コロナウイルス感染症禍対応
- ② 学生の活躍

## 2. 教育重点項目(中間報告)

- ① 新学科設立 DXスペシャリスト科
- ② 第三者評価(2022-2026)の受審
- ③ NEXT10「日本電子専門学校のさらなる伸張」
- ④ クリエイター教育の重点項目
- ⑤ エンジニア教育の重点項目



学校法人 電子学園

日本電子専門学校

# 令和4年度前期 学校の近況



# 新型コロナウイルス感染症禍対応

## 1. 学校行事

- 入学式(4/9)
  - 学校関係者に限定して実施、映像同時配信
- 新入生ご家族と連携を図る会(4/23)
  - オンライン開催(VOD形式)
- スポーツフェスティバル(8/18)
  - 中止(3年連続)
- 合同企業説明会
  - 春季(4/28)、夏季(7/4)、秋季(10/11)
  - NSビル開催、感染防止ガイドライン(企業数限定、アクリルボード)
- 就職に向けたご家族と連携を図る会(10/13)
  - オンライン(VOD全体会+ZOOM・リアル個人面談)
- 日専祭(10/29-10/30)
  - 感染防止ガイドライン
  - 3年ぶりに屋台営業



# 新型コロナウイルス感染症禍対応

- コロナ・ワクチン職域接種の実施
  - 2・3年生＋教職員
    - 第3回接種(4/30)
  - 1年生
    - 東京都ワクチンバス制度(7/26)

# 学生の活躍

- 第46回技能五輪国際大会
  - 日本(京都10/15-18)、韓国(コヤン10/13-16)
  - 【銅賞】荒井 音寧(光電子技術職種)
  - 【出場】山崎 ひかる(3Dデジタルゲームアート職種)
  - 【出場】園田 拓也(モバイルアプリケーション開発職種)



# 学生の活躍

- 第60回技能五輪全国大会
  - 千葉県・幕張メッセ(11/4-7)
  - 【銅 賞】吉田 亘輝(ウェブデザイン職種)
  - 【敢闘賞】鈴木 伊織(ウェブデザイン職種)



# 学生の活躍

- 第17回若年者ものづくり競技大会
  - 広島県(7/27-28)
  - 【金賞/厚生労働大臣賞】
    - 中村 哉太(ウェブデザイン職種)
  - 【金賞/厚生労働大臣賞】
    - 山本 実紗希(業務用ITソフトウェア・ソリューションズ)





# 学生の活躍

- アドビ認定プロフェッショナル世界学生大会2022 日本代表選考コンペ
  - 【1位】刘 卓桐
- NetAcad Riders 2022
  - 【日本1位】藤原 大樹(世界大会出場)
  - 【日本2位】吉川 諒
- ETロボコン2022 東京・北関東地区大会
  - 【第3位・学生表彰】(プライマリークラス総合部門):JECJY1(全国大会出場)
- 電気工事士技能競技大会
  - 【チャレンジ優秀賞】坂本 結稀、森 碧大
- 第3回MCPCナノコン応用コンテスト2022
  - 【最優秀賞】:清水 亮佑、佐々木 花菜、藤嶋 美凧
- にいがたデジコングランプリ2022(オープンデータ活用企画書部門)
  - 【グランプリ(総務省信越総合通信局長賞)】宮部 美月



学校法人 電子学園

日本電子専門学校



# 令和4年度前期 教育重点項目 中間報告



# 令和4年度 教育重点項目

- 新学科設立 DXスペシャリスト科
- 第三者評価(2022-2026)の受審
- NEXT10「日本電子専門学校のさらなる伸張」
  - 「建学の精神」の実現に向けた「教育の質の保証・向上」
  - 学生主導で社会人基礎力を養うキャリア教育の充実
  - 新設学科開発フレームを活用した調査・検討
  - 遠隔授業の標準化・質保証と先端テクノロジーの利活用
- クリエイター教育の重点項目
  - 就職指導・サポートの充実
- エンジニア教育の重点項目
  - 東京P-TECHへの連携体制の構築



# 新設学科設立

2023年4月新設

# DXスペシャリスト科

デジタルトランスフォーメーション

新しい世界をつくる  
DX人材になる



建築 × DX



配達 × DX



医療 × DX

- 商業実務専門課程 昼間部2年課程
- 定員40名
- 情報処理分野の一角として、IT+ビジネスを学ぶ



## 新設学科設立 DXスペシャリスト科

- 募集状況(11月15日時点)
  - OC&体験参加者:54名(有資格者)
  - 出願19名(新卒:16名、既卒:3名、留学生0名)
  - 合格19名
  - 手続18名(新卒:15名、既卒:3名、留学生0名)
- 定員(40名)確保に向けて鋭意活動中



## 第三者評価(2022-2026)の受審

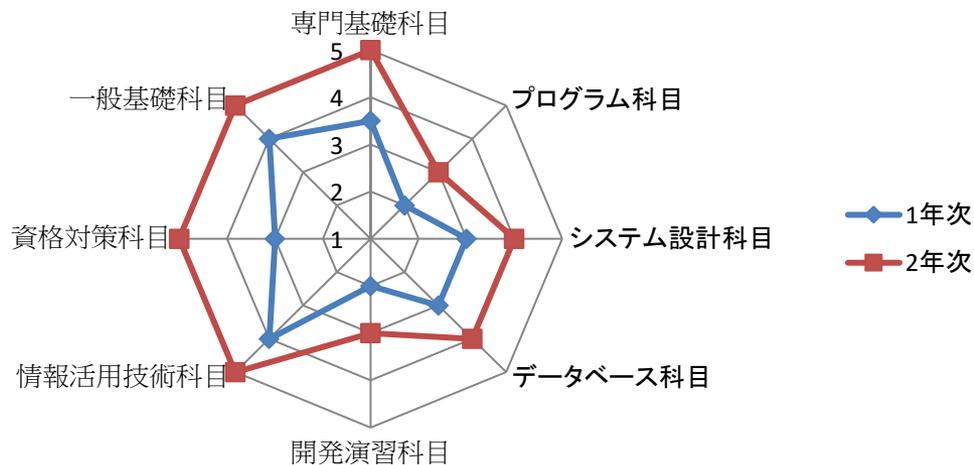
- 平成19年、24年、29年に続き、4回目の第三者評価
- 私立専門学校等評価研究機構に依頼
- 私立専門学校等評価研究機構の第三者評価基準(Ver.4)に基づき、10大項目、37中項目、65小項目、289チェック項目について評価(可・否)される
- 必要書類の提出を完了(自己点検評価報告書+エビデンス)
- 1月に現地調査(予定)
- 3月に私立専門学校等評価研究機構による評価報告書の公開(予定)

### (10大項目)

- |                  |                |
|------------------|----------------|
| I. 教育理念・目的・育成人材像 | VI. 教育環境       |
| II. 学校運営         | VII. 学生の募集と受入れ |
| III. 教育活動        | VIII. 財務       |
| IV. 学修成果         | IX. 法令等の遵守     |
| V. 学生支援          | X. 社会貢献・地域貢献   |



# 「建学の精神」の実現に向けた 「教育の質の保証・向上」



## ・ディプロマサプリメント(仮称)による学修成果の可視化

### 【情報処理科(2年制課程)で試行】

|        |  |
|--------|--|
| 学習分野   | 情報処理科の学修分野を以下の6つにカテゴリ化。<br>1. ITリテラシ(IT一般)<br>2. プログラミング<br>3. データベース・SQL<br>4. Web技術<br>5. 設計<br>6. サーバ構築・運用修成果を中間アウトカムズと位置付け               |
| スキルレベル | スキルレベル基準として以下の3段階で分類。<br>レベル3: <b>成績 A</b> 相当で到達するスキルレベル<br>レベル2: <b>成績 B</b> 相当で到達するスキルレベル<br>レベル1: <b>成績 C</b> 相当で到達するスキルレベル<br>(最低限の卒業要件) |



# 産業界のニーズに基づいた基礎的・汎用的能力の養成プロジェクト



## ・ジェネリックスキル診断「PROG」を活用し 基礎的・汎用的能力を測定

※「PROG」とは、社会で求められている能力を“リテラシー”と“コンピテンシー”の二側面で客観的に測定するアセスメントです。

|         |   |
|---------|---|
| リテラシー   | 知識を利用して課題を解決する力(≡思考) <ul style="list-style-type: none"><li>・情報収集力</li><li>・情報分析力(言語処理力、非言語処理力)</li><li>・課題発見力</li><li>・構想力</li></ul>                              |
| コンピテンシー | 経験を積むことで身についた行動特性(≡態度、技能) <ul style="list-style-type: none"><li>・対人基礎力(親和力、協働力、統率力)</li><li>・対自己基礎力(感情制御力、自信創出力、行動持続力)</li><li>・対課題基礎力(課題発見力、計画立案力、実践力)</li></ul> |

# 産業界のニーズに基づいた基礎的・汎用的能力の養成プロジェクト



学校法人 電子学園

日本電子専門学校

## ・リテラシーの診断結果(例)

### Literacy

#### リテラシー

[ 1 : リテラシーを支える4つの力 ]

#### リテラシーを構成する要素

リテラシーは、①情報収集力、②情報分析力、③課題発見力、④構想力の4つの要素から構成されます。これらは問題解決のプロセスにかかせない要素です。しっかりした問題解決力を身に付けるためには、関連する知識を学習し、積極的に活用することが必要です。

#### 情報分析力

事実・情報を思い込みや検測でなく客観的にかつ多角的に整理・分析し、それらを統合して隠れた構造を捉え本質を見極める力

成績  
3  
Level

#### 課題発見力

さまざまな角度と広い視野から現象を捉え、背景に隠れているメカニズムや原因について考察し、解決すべき課題を発見する力

成績  
3  
Level

#### 情報収集力

幅広い観点から適切な情報源を見定め、適切な手段を用いて情報を収集・調査し、それらを適切に整理・保存する力

成績  
1  
Level

#### 構想力

さまざまな条件や制約を考慮しながら問題解決までのプロセスを構想し、その過程で想定されるリスクや対処方法を構想する力

成績  
3  
Level

今回 2022年6月13日採点

※このページの成績はレベル1～5で表示しています。

# 産業界のニーズに基づいた基礎的・汎用的能力の養成プロジェクト



## ・コンピテンシーの診断結果(例)

### Competency

#### コンピテンシー

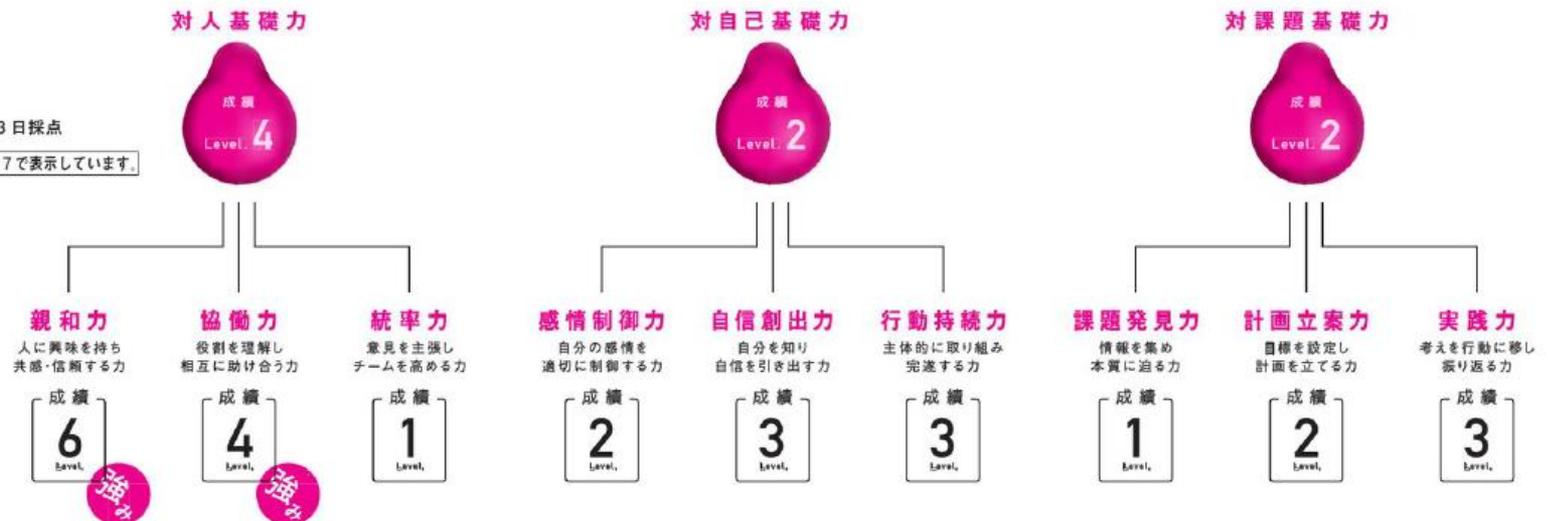
[ 1:コンピテンシーを支える3つの力 ]

コンピテンシーの3つの構成要素を、更に分解し深める

このページでは、前頁で強み/課題ととらえた要素に関する理解を深めるために、コンピテンシーの3つの構成要素をさらに分解し、9つの力にわけています。

今回 2022年6月13日採点

※このページの成績はレベル1~7で表示しています。





第53回 日専祭実行委員会

# 学生主導で社会人基礎力を養う キャリア教育の充実

- 本テーマの目的
  - ①学生自治会の適正運用、②学生主体の学校行事の在り方の検討、③クラス内組織の検討を通して、学生の社会人基礎力の向上を図ること
- 前期の実績
  - ①学生自治会の適正運用について
    - 学校周辺清掃ボランティア活動
    - 学校関係者評価委員会への参加
    - 新宿警察署主催「痴漢被害撲滅キャンペーン」ボランティア活動
    - クラブ・同好会紹介イベント開催
    - 学生自治会新メンバー募集説明会開催
    - 学園報取材対応
    - 学生自治会定例会(毎月1回実施)

# キャリア教育分科会



学校法人 電子学園

日本電子専門学校

令和4年度 学生自治会メンバー 合計39名 ※昨年度15名  
(うち、日本電子専門学校特別奨学生3名)

| 役 職    | 氏 名   |
|--------|---|
| 会長     | 武藤遼河  |
| 副会長    | 水野瑞希、村木翔、根本昌和、蔡ダウム                                |
| 書 記    | 長谷川篤桃、茂呂洋佑、泉澤 蒼良                                  |
| 総 務    | 木村和馬、高橋星匡、楊志庄、向後陽央、瀬川勝元、出岡祐樹                      |
| イベント   | 樋渡悠成、成澤敢太、宮下好葉、中島咲貴、棟方秀翔、高澤翼<br>石井航太郎、ジョンヘウン、堀水幸輝 |
| ボランティア | 富澤蒼志、藤本崇正、根本竜也、伊藤一真、小出颯人、早川依吹<br>峰尾憲太郎            |
| 広 報    | 笹原萌絵、上條颯斗、水村将久                                    |
| 経 理    | 小島海、岩澤木立、中川郁哉、野口健太郎、堀切悠汰、吉川晴道                     |



- 前期の実績

- ②学生主体の学校行事の在り方の検討

- スポーツフェスティバル実行委員会

- ※スポーツフェスティバルはコロナ禍により中止

- ③クラス内組織の検討

- クラス委員長制度発足

- クラス委員長定例会議(毎月1回実施)

- 教職員プロジェクトによる分科会実施(2回実施)

## • 前期の実績



## • 後期に向けた課題

- 在校生全学生の社会人基礎力の測定  
2023年3月までに在校生に実施（進級・卒業）  
2024年5月までに新入生に実施（予定）



# 新設学科開発フレームを 活用した調査・検討

学科新設

+

既存学科の見直し

常に「魅力のある、募集力の高い状態」を  
保つための土台作り



## 令和4年度実施予定項目

- ① 学科科新設スキームに基づく新設学科(附帯教育)公募
  - 第一次スクリーニングの実施
  - 新設学科設立準備(※対象学科がある場合)
- ② DXスペシャリスト科設立準備
- ③ 学科統廃合スキームに基づく既存学科の見直し

## 令和4年度上半期の実績

### ①学科新設スキームに基づく新設学科(附帯教育)公募

「提案」の募集 → 「アイデア」の募集 に変更

第一次スクリーニングで絞り込まれたアイデアについて  
分科会メンバーによる提案者へのヒアリング、ブラッシュアップ

→ 最終判定で合格

→ 新設学科設立提案書を作成、理事会に諮る

アイデア提出6件、第一次スクリーニングを実施

→ 3件について提案者へのヒアリング・ブラッシュアップ

→ 新設学科設立提案には至らず / 継続検討



## 令和4年度上半期の実績

### ②DXスペシャリスト科設立準備

オープンキャンパス&体験入学 実施内容確認  
改善に向けたアドバイスを実施

→ 11月15日時点の出願:19名 / 合格:18名

### ③学科統廃合スキームに基づく既存学科の見直し

学生数、損益分岐点比率の推移、募集イベント参加状況  
などをもとに、年度当初に既存学科の状況確認を実施

→ 統廃合候補となる学科は「なし」



## 下半期に向けて

- ・学科新設アイデアの継続検討  
（前期中の提案をもとに 分野をまたいだ検討・調整）
- ・学科新設スキームのブラッシュアップ  
次年度公募に向けた準備
- ・DXスペシャリスト科運用開始に向けたサポート
- ・募集状況により次年度クラス数増減を判断



# 遠隔授業の標準化・質保証と 先端テクノロジーの利活用



- 検討目的
  1. 遠隔授業ガイドラインの策定を行う
  2. ナレッジベースの構築を行い、業務に関する知見を共有化する
  3. 教育への先端テクノロジー利活用の検討を行う
  
- 令和4年度前期の成果
  1. 「遠隔授業運用ガイドライン」のリリース。
  2. ナレッジベースの運用開始とナレッジの蓄積

### 3) ハイフレックス型授業運用例

【ケータイ・アプリケーション科 実習系の授業での例】

ケータイ・アプリケーション科の時間割は、対面授業日と遠隔授業日を設け、座学・実習によらず科目を配置しています。ただし、授業内容の特性を意識するのはもとより、例えば4駒実施の実習科目の場合、2駒を対面で2駒を遠隔でといったようにバランスを重視し、遠隔授業時の進捗を対面授業開始時に確認するといった運用をしています。

ただし、この運用をするためには、いくつかの条件があると考えています。

- ・全員のPC実習環境が同じ内容で揃っている。  
=>環境面のトラブルが起こりにくい
- ・教員から見える場所に、学生からはどう見えているのかわかるPCを別で用意する。
- ・教員PCにはサブモニターを用意する。登校する学生は中間モニターなどで教員の作業内容がわかりやすくなっている。(推奨)

上記条件を踏まえた実際の配信環境は以下のイメージになります(782教室の例)。



# 遠隔教育標準化分科会



学校法人 電子学園

日本電子専門学校



team  
日本電子専門学校



ホーム



お気に入り



通知

ページを検索

ページを投稿する

検索する

タグ

ノート

▼ マニュアル

NotePMマニュアル 5

▼ ノート

00\_業務連絡 2

10\_授業運用

20\_クラス運用

30\_事務処理関連 1

50\_各種学校行事

60\_環境管理等

70\_保健室 1

etc 99\_その他 3



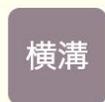
大川晃一 が作成

遠隔授業運用ガイドラインについて

10\_授業運用

2ヶ月前

12



横溝健太 が作成

【X'sion】ワークフロー申請 ~公用外出編~

etc 99\_その他

2ヶ月前

11



横溝健太 が作成

【X'sion】ワークフロー申請 ~休日出勤編~

etc 99\_その他

2ヶ月前

16



伊藤靖彦 が更新 (Rev.10)

Amazonの請求書払い

30\_事務処理関連 Amazon

3ヶ月前

43

2



大川晃一 が更新 (Rev.2)

【要望】学生とのコミュニケーションツールについて

etc 99\_その他

3ヶ月前

28

1



学事部 が更新 (Rev.11)

休退学時に発生する費用

20\_クラス運用 休退学

4ヶ月前

32

1



学事部 が更新 (Rev.14)

休学の手続き

20\_クラス運用 休退学

4ヶ月前

38

1

吉武 夕美子 が更新 (Rev.3)

4ヶ月前



- 後期に向けた課題
  1. ナレッジベースに蓄積されるナレッジの質・数を向上させる
  2. 「先端テクノロジー」を利活用した授業運用の検討を開始
  3. オンデマンド授業の導入・活用のための方針を検討する

令和4年度 重点項目

## ◆就職指導・サポートの充実

クリエイター分野は「通年採用」 中盤～後半勝負  
例年、9月末までの就職率は高くない

→ コロナ禍以降、特に前半戦の苦戦が顕著に

9月末時点での内定獲得率

・R1(※コロナ前) 28.6%

・R2(※コロナ後) 12%

・R3(※コロナ後) 16.5%

## ●令和4年度 重点項目

### <方針>

前半戦の強化／コロナ禍前の水準に戻す

### <対策>

- ・学科目標・個人目標への落とし込み
- ・具体的な方策の検討と実施

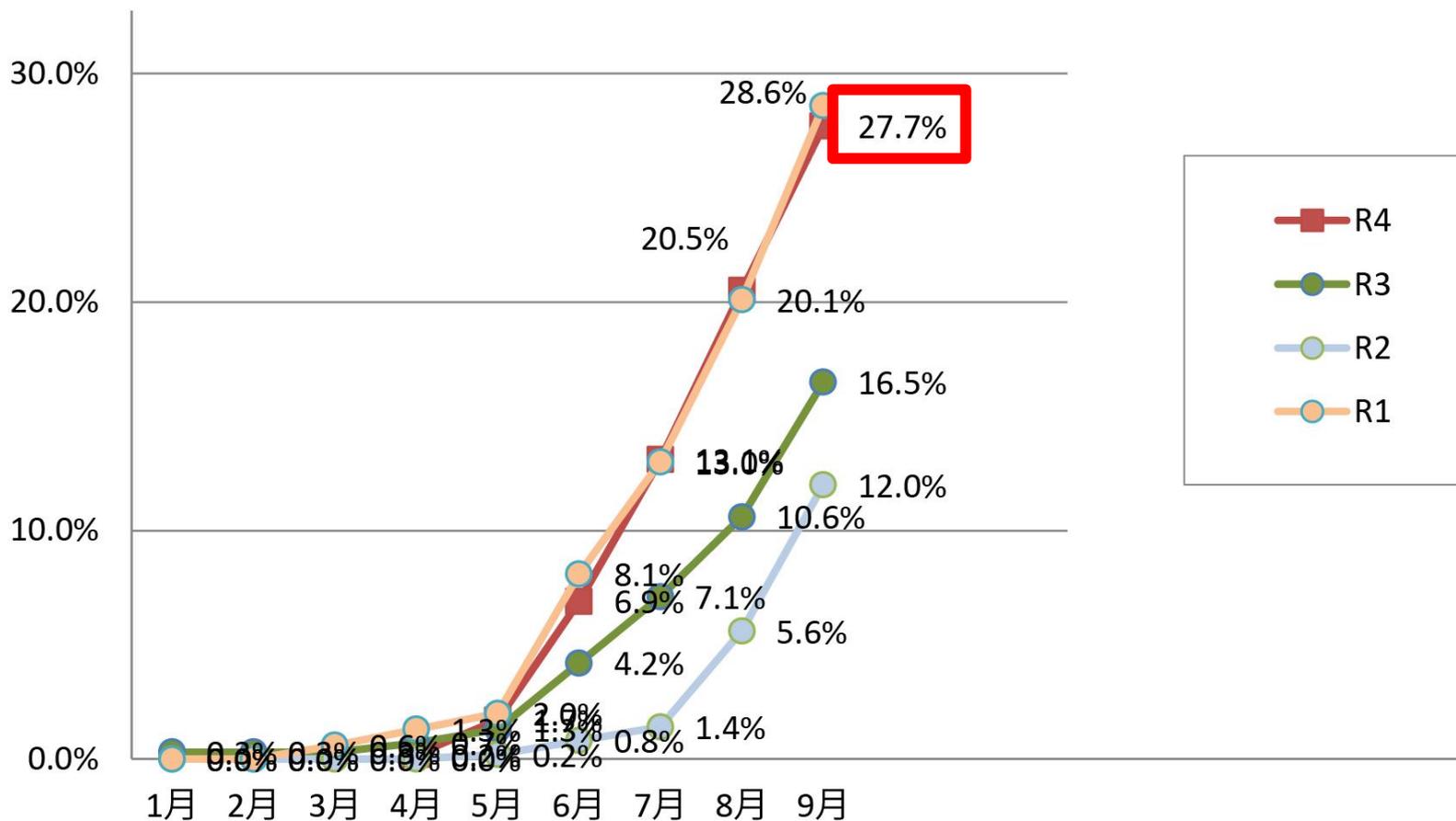
プロ業者による春・夏2回の模擬面接訓練(CG)

個人面談・活動状況把握の徹底(ゲーム)

企業によるポートフォリオ講評会(アニメ)

分野を超えた求人情報の提供 他

## ● 前期実績



## ●後期に向けて

- 就職指導・サポートのより一層の充実  
未内定学生に対する集中的なケアの要請  
キャリアセンターとの連携強化



コロナ禍前の水準に戻す  
(R1内定獲得率 93%)



## ⑥エンジニア教育の重点項目

夜間部学科の再構築検討

エンジニア教育 部長 大川 晃一



学校法人 電子学園

日本電子専門学校



エンジニア教育

## 令和4年度 エンジニア教育 重点項目

### ◆Tokyo P-TECHへの連携体制の構築

#### ・Tokyo P-TECHとは

都立高校等、専門学校等及びITに関する企業等が連携及び協力し、ITに関する知識・技術を身に付けさせるだけでなく、生涯にわたって社会で活躍するIT人材を育成する事業

=>高校3年＋専門2年の5年間を通して一貫した連携教育カリキュラムを実施していく

## 令和4年度 エンジニア教育 重点項目

### ◆連携体制

- ・工業高校

  - 荒川工業高校

- ・企業

  - 株式会社ウチダ人材開発センタ

  - ソフトバンク株式会社

  - free株式会社

- ・専門学校

  - 日本電子専門学校



## 5年間のロードマップ

|                                   |  |   |  |                                      |
|-----------------------------------|--|---|--|--------------------------------------|
| <p><b>5年生</b><br/>(キャリアを実現する)</p> | <p>これまでの集大成として、チームでIoT、AIなど幅広いIT技術を組み合わせて仮想業務システムの構築ができる</p> | <p>課題解決能力を身に付け、チームの中でIT技術の組み合わせによる課題解決を提案することができる</p> | <p>①社会参画への準備<br/>②総合力の実践</p>           | <p>①卒業後進路の最終決定<br/>②卒業制作・研究(PBL)</p> |
| <p><b>4年生</b><br/>(専門性を高める)</p>   | <p>業界から求められる資格の取得を通じて、システム開発の知識・技術を習得する</p>                  | <p>課題解決にどのようにIT技術を活用できるのか、単純な仕組みを提案することができる</p>       | <p>①専門性を高める<br/>②IT業界・企業への就業意欲を高める</p> | <p>①専門授業<br/>②IT企業講話</p>             |

## 入学選考

|                                   |  |  |  |   |
|-----------------------------------|--|--|--|---|
| <p><b>3年生</b><br/>(キャリアに挑戦する)</p> | <p>・サーティファイ3級<br/>・J検(情報活用)2級</p>                      | <p>独創的に解決策を探究し、科学的な根拠に基づき創造的に解決することができる</p>      | <p>①協働し課題解決する力<br/>②キャリアへの挑戦</p>                         | <p>①課題研究(PBL)<br/>②進路選択・決定</p>                                |
| <p><b>2年生</b><br/>(キャリアを選択する)</p> | <p>実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける</p>              | <p>自ら課題を発見し、グループで解決する力を養い結果を発表することができる</p>       | <p>①社会人基礎力、協働<br/>②キャリアの選択</p>                           | <p>①インターンシップ<br/>②プレゼンテーション演習</p>                             |
| <p><b>1年生</b><br/>(キャリアを考える)</p>  | <p>情報技術の進展と情報の意義や役割及び数値処理の理論を理解するとともに、関連する技術を身に付ける</p> | <p>工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決することができる</p> | <p>①モラルと基礎学力の向上<br/>②ITおよびデザインに関する興味関心<br/>③社会と企業を知る</p> | <p>①専門学校との授業内連携<br/>「工業情報数理」<br/>②デザインワークショップ<br/>③IT企業講話</p> |

## 今年度の実施計画(試行実施)

| 2022          |    |    |
|---------------|----|----|
| 1月            | 2月 | 3月 |
| ▲●令和4年度試行準備期間 |    |    |

|                         | 2022                            |                                |                |                                |  |    |                        |  |     |                     | 2023 |  |  |
|-------------------------|---------------------------------|--------------------------------|----------------|--------------------------------|--|----|------------------------|--|-----|---------------------|------|--|--|
|                         | 4月                              | 5月                             | 6月             | 7月                             | 8月                                     | 9月 | 10月                    | 11月                                    | 12月 | 1月                  | 2月   | 3月                                     |  |
| 1年生<br>(R4入学生)<br>※試行実施 | ●企業講話A<br>ソフトバンク<br>(情報モラルについて) | ●企業講話B<br>ソフトバンク<br>(IT業界について) |                | ●課外授業<br>フリー<br>(働き方のシミュレーション) |  |    |                        |  |     | ●専門講話<br>(専門学校のすすめ) |      |  |  |
|                         |                                 |                                |                | ●企業講話C<br>ソフトバンク<br>(IT活用事例紹介) | ●企業講話D<br>内田人材開発センター<br>(働くこと、ビジネスマナー) |    |                        | ●企業講話E<br>内田人材開発センター<br>(働くこと、ビジネスマナー) |     |                     |      | ●企業講話F<br>内田人材開発センター<br>(働くこと、ビジネスマナー) |  |
|                         |                                 |                                | ▲放課後コンテンツ (専門) |                                |  |    | ●放課後コンテンツ (AIチャレンジ、専門) |  |     |                     |      |  |  |
|                         | ▲工業情報数理 (専門+AIチャレンジ)            |                                |                |                                |  |    | ●ペッパープログラミング (ソフトバンク)  |  |     |                     |      |  |  |

## Tokyo P-TECHへの連携体制構築に向けて

- ・年間カリキュラムの構築

現在は高校側のオーダーに対して、都度対応している状態

- ・放課後コンテンツの充実

今年度はCG、ゲーム、スマホの3分野で実施

- ・対応可能人員の確保

週1日の授業、及び年間9回程度の放課後対応

- ・学生の受け入れ体制の検討



# ご静聴、有難うございました。

コロナ禍に負けず、教育を継続してまいります。  
引き続き、ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。